TOMBOW

トンボ

CSRレポート2009

2008.7.1～2009.6.30

人と自然を大切にした価値ある製品づくりを

アキアカネ(♂)

アキアカネは日本を代表する赤とんぼです。
北海道から九州まで、全国の水田に生息しており、童謡の「赤とんぼ」はアキアカネがモデルだと言われています。
ところが、ここ10年来、地域によってはアキアカネの個体数が激減しています。何らかの理由で棲み家である水田に環境変化が起きていることが原因でしょう。
いま、私たちはアキアカネの群れ飛ぶ水田という、日本の原風景を失おうとしています。アキアカネをとおして、人間と生物との共存できる環境を考えたいものです。

解説文　新井　裕氏(NPO法人　むさしの里山研究会　理事長)
写真提供　社団法人　トンボと自然を考える会　常務理事　杉村　光俊氏

編集にあたって

「トンボCSRレポート2009」は、昨年までの2号をベースに、皆様から多数のご意見・ご感想を頂き、トンボのCSRへの取組みをできるだけ分かりやすくお伝えできるように心掛けました。
編集にあたっては、前半は勉強会、社内への啓蒙活動を行い、特に、CSR指針・CSRチェックリストの作成、ブランディングについての討議を行ってまいりました。
CSR経営の実践に向けて各ステークホルダーの皆様に分かりやすく、ご理解して頂く思いで発行致しました。また、今号の表紙は、トンボが3匹雄飛しています。今後もその数の増加に合せてCSRレポート内容の充実を図って参ります。
尚、アンケート用紙を添付していますので、皆様からのご意見・ご感想をお聞かせ願います。今後のレポートづくりに反映させ、一層の充実を図って参りたいと思います。

INDEX

会社概要 …… 3
トップメッセージ …… 5
信頼される企業体制 …… 7
お客様に安心と満足をお届けするために …… 11
ハイライト
　新玉野本社工場・物流センター完成 …… 13
環境活動報告
　環境方針と環境負荷低減活動 …… 17
　社会とのかかわり　トンボの縁で広がる輪 …… 19
　トンボ絵画コンクール …… 21
　環境活動とコミュニケーション …… 22
社会的活動報告
　ビクトリースポーツ教室 …… 23
　制服着こなしセミナー …… 24
　ユニフォームミュージアム …… 25
　財団法人 八正会 …… 26
健全な企業風土づくり
　いきいきと働ける職場づくり …… 27
制服と青春の思い出 …… 29
沿革 …… 30

会社概要

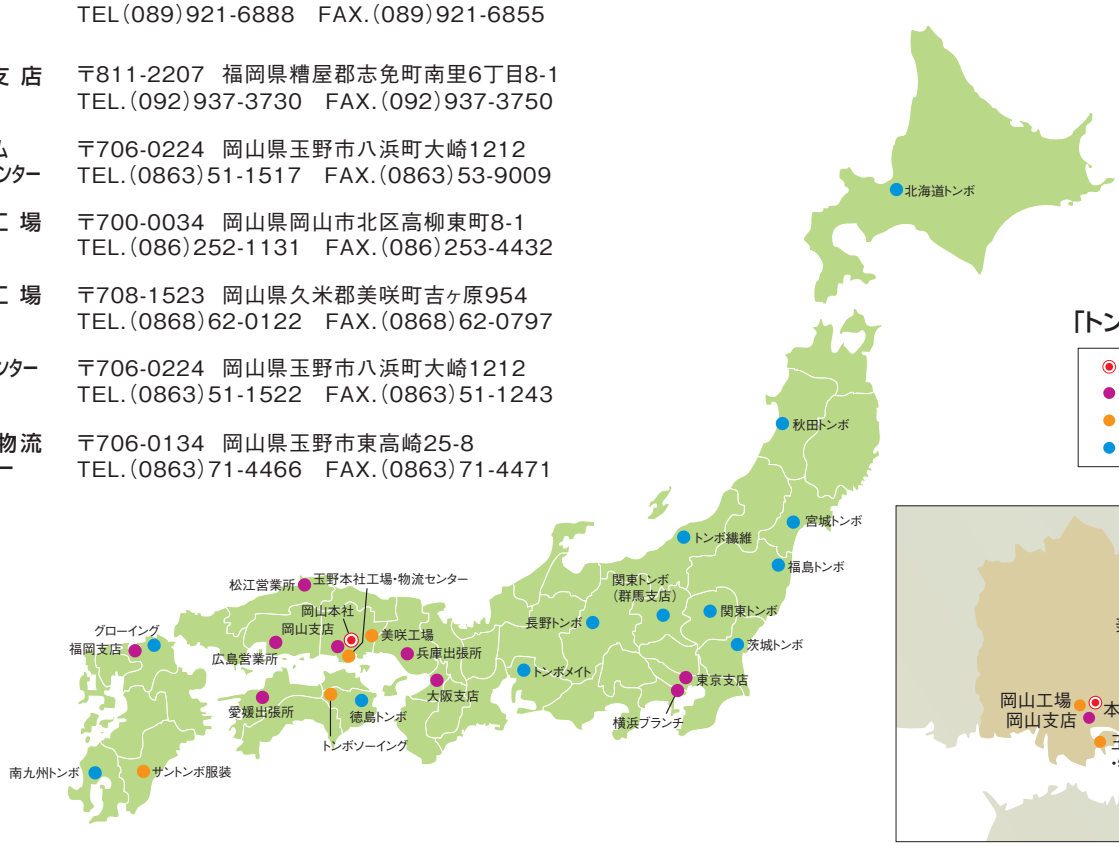
社　　名	**株式会社 トンボ**
U　R　L	http://www.tombow.gr.jp
会社設立	大正13年5月10日（創業:明治9年）
資本金	1億8千万円
代表者	取締役社長　落司 量則（おとし かずのり）
従業員数	716人（2009年4月末現在）
本店所在地 玉野本社工場	〒706-0224　岡山県玉野市八浜町大崎1212 TEL.（0863）51-1515　FAX.（0863）51-2526
事業所所在地 本社事務所	〒700-0985　岡山県岡山市北区厚生町2丁目2-9 TEL.（086）232-0311　FAX.（086）225-4094
東京支店	〒136-0071　東京都江東区亀戸2丁目34-4 TEL.（03）5626-2251　FAX.（03）5626-2265
横浜ブランチ	〒222-0033　神奈川県横浜市港北区新横浜2丁目7-1 日総第14ビル　2F TEL.（045）473-8705　FAX.（045）473-8719
大阪支店	〒540-0025　大阪府大阪市中央区徳井町2-1-1 TEL.（06）6942-5551　FAX.（06）6942-5549
岡山支店	〒700-0977　岡山県岡山市北区問屋町22-101 TEL.（086）241-7830　FAX.（086）241-7856
広島営業所	〒733-0842　広島県広島市西区井口5丁目3-4 TEL.（082）270-5121　FAX.（082）270-5123
松江営業所	〒690-0047　島根県松江市嫁島町13-5 TEL.（0852）23-3211　FAX.（0852）27-5387
兵庫出張所	〒672-8071　兵庫県姫路市飾磨区構1丁目94 TEL.（0792）31-2522　FAX.（0792）33-4522
愛媛出張所	〒790-0014　愛媛県松山市柳井町1丁目15-9 TEL（089）921-6888　FAX.（089）921-6855
福岡支店	〒811-2207　福岡県糟屋郡志免町南里6丁目8-1 TEL.（092）937-3730　FAX.（092）937-3750
ユニフォーム 研究開発センター	〒706-0224　岡山県玉野市八浜町大崎1212 TEL.（0863）51-1517　FAX.（0863）53-9009
岡山工場	〒700-0034　岡山県岡山市北区高柳東町8-1 TEL.（086）252-1131　FAX.（086）253-4432
美咲工場	〒708-1523　岡山県久米郡美咲町吉ヶ原954 TEL.（0868）62-0122　FAX.（0868）62-0797
玉野物流センター	〒706-0224　岡山県玉野市八浜町大崎1212 TEL.（0863）51-1522　FAX.（0863）51-1243
紅陽台物流 センター	〒706-0134　岡山県玉野市東高崎25-8 TEL.（0863）71-4466　FAX.（0863）71-4471

「事業内容」

スクールユニフォーム、スポーツウエア、
ビジネスユニフォーム、介護ウエアなどの
企画、製造、販売

「関連会社」

北海道トンボ株式会社
秋田トンボ株式会社
宮城トンボ株式会社
福島トンボ株式会社
関東トンボ株式会社
茨城トンボ株式会社
株式会社トンボ繊維
長野トンボ株式会社
株式会社トンボメイト
徳島トンボ株式会社
グローイング株式会社
南九州トンボ株式会社
株式会社マイク
株式会社モリ商会
トンボソーイング株式会社
サントンボ服装株式会社
株式会社ハートヒルズ
株式会社トンボシステム
株式会社トンボ保険サービス



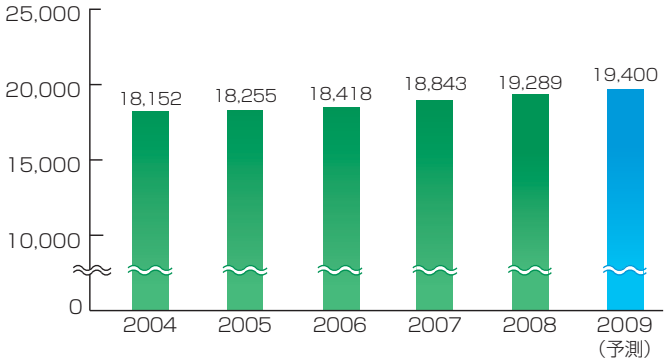
「トンボグループ」

- 本社
- 支店
- 工場
- 販売会社

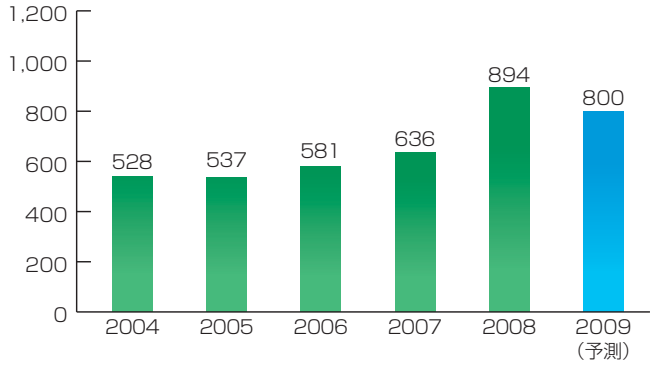
キイロサナエ

本社ビル（岡山市）

■売上高推移表（単体）（単位:百万円）



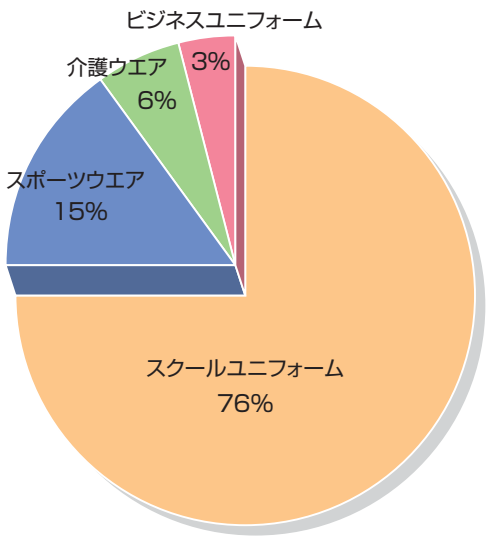
■経常利益推移表（単体）（単位:百万円）



■主要ブランド

トンボ学生服
トンボ通学服
トンボ女子通学服
TOMBOW MAX
TOMBOW VARSITYMATE
TOMBOW Primary
TOMBOW LuluSweet
トンボスポーツウェア
VICTORY
VICTORY X
TOMBOW WIN
F.C. bach
AIR TOUCH
KIRAKU CARE & COMFORT WEAR
GLEN-DEE
KUROKURENAI
uniform TOKYO collection
COMME ÇA DU MODE School Label
OLIVE des OLIVE School
hiromichi nakano
KANSAI SCHOOL FORM
YONEX

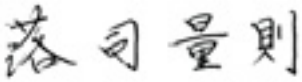
■売上高構成比率（単体）



トップメッセージ

トンボブランドのスローガン ―― ここちよさを、ひとつずつ

代表取締役社長



当社は本年6月末で100回目の決算を迎えます。最初の頃は半期決算もあり、単純に年度換算はできませんが、それにしても3桁を数える長きにわたり事業を行なってきたわけで、それを思うと感無量です。
未曾有の大不況といわれる現在ですが、過去にも経済を揺るがす変動はいくつもありました。その渦中にあって、お客様の支持のもと、愛と汗の精神と時代を見据える慧眼で苦難を切り開いた先人の努力を受け継ぎ、間違いのない経営を積み上げていきたいと感じています。
ここでは、どのような指針で日々の営業を行うべきか、思うところを述べたいと思います。

価値の順位が変わる時代到来

一般に、アパレルは装置産業というよりも、情緒産業と言われ、新しいトレンドやデザインが価値の源泉と言われてきました。現にそれで大成功を収めた企業はたくさんあります。しかし、今まで成功してきた手法、つまりトレンド提案や個性的なデザインに優先価値を置く手法がこれからも通用するのかどうか、少しあいまいな時代になってきました。
過去、オイルショックやバブル崩壊などの生活危機を経て賢くなってきた生活者は、生活の成熟化を背景に、お金は持っていても、過度に流行やデザインの変化を追い求めようとはしません。衣服に『いつまでも色褪せない価値』つまり情報や情緒以外の価値を重視する傾向がいっそう高まっているようです。
そのような時期に、今回の金融危機に端を発する極端な買い控えが起きています。

しかし一方で、ユニクロのヒット商品に代表されるように、十分な保温性を確保した上で軽く薄く安価な商品、つまりニーズをうまく組み合わせた機能商品が評価され買われています。外食産業や製造業など、大不況に沈む業種にも、伸びている企業は見られます。お客さまはどのような基準で、ものを選び買おうとするのでしょうか?
注意深く買われているものを観察すると、いくつか共通項があるように思います。その共通項とは、トレンド追随や差別化デザインではなく、お客様にとっての利便性、つまりユーザビリティ※1重視の姿勢です。
敢えてもう少し拡大解釈すれば、それはお客様の価値の優先順位が変わってきたことを意味するように思います。

	今まで	これから
価値	トレンド(流行)を取り入れた衣料、店の演出	**Emotion(感動)** 深く強い感動を受ける商品、販促、接客、サービス
価値	目新しさ、洗練されたデザイン	**Solution(解決)** 商品やサービスに、問題を解決してくれる機能が付加され、アフターフォローがしっかりある

ユーザビリティ重視

不況真っ只中の今は、ついつい低価格が売れると解釈してしまいがちですが、実際は『この機能で、この着心地と見映えで、この安さ』つまりお客様ニーズを的確に捉えたマーチャンダイジングが購買につながったのであり、もっと大事なことは、ユーザビリティ重視の姿勢が感動を呼ぶと考えられることです。

ショウジョウトンボ

私たち、ユニフォーム業界人が反省しなければならないのは、他のファッションアパレルに比べ、耐久性や機能性のウェイトが高いユニフォームでは当たり前だった機能訴求をうまく販売に結び付けていなかった点です。
まさに紺屋の白袴なのですが、私たちに足りない点は、もしかすると、テクノロジーを駆使して課題解決を追求する執念、それをお客様に正確に伝える技術、そしてそれが感動を呼ぶという信念や情熱だったかも知れません。

ユーザビリティを高めるマンパワーを

そう考えればメーカーとして当社がこれから取る道は見えてきます。
昨年10月に完成した玉野本社工場と物流センターを基盤に、これから実現しなければならないのは、『感動』を生むまでに仕事を高める情熱と、それをスマートに完成度高く実現する課題解決力であり、それは、マンパワーに他なりません。
具体的には、志を持って人材育成の仕組みづくりを行なうことと、意思決定の情報共有を可能にする円滑で緻密な情報交通の整備です。

その基盤に立って、ユニフォームメーカーにふさわしいユーザビリティとは何か、感動を呼び、顧客から支持される機能とサービスは何かを突き詰めることが重要だと考えています。

スローガンに込めるユーザビリティへの思い

もちろんそれは、CSRに合致していることが前提であり、さらには一歩踏み込んで当社らしい個性の表現も必要です。
そこで、今回新たにCSR指針を設けると共に、トンボブランドを表現するスローガンも設定しました。

なお、スローガンは、ユニフォームならではの『毎年同じアイテムを作りつづける』ことを利点として、機能を高めたり品質を向上させる姿勢の表明と、お客様にとってのここちよさを実現することが当社の重要テーマであることを、やさしく言葉にしたものです。
このスローガンを皮切りに、トンボブランドの価値をさらに上げるブランディング※2活動が活発になれば良いと考えています。

編注:詳細は本誌7ページをご覧下さい。

※1　ユーザビリティ　お客様にとっての使いやすさ。
※2　ブランディング　お客様にとって価値のあるブランドを構築する為の企業活動。

トンボ経営理念

私たちの使命

トンボブランドのもと、
最良のユニフォームメーカーをめざし、
社会に役立つ確かな価値を創造し、提供します

私たちの行動指針

・愛と汗の精神で、人を大切にし、全員経営をめざします
・信用を重んじ、約束を守り、誠実に行動します
・縁を大切にし、相手の立場を尊重します
・社会に役立つ、心の通った開発をめざします
・自然と環境に配慮した活動を行います

■コーポレートスローガン

『人と自然を大切にした価値ある製品づくりを』

コーポレートスローガンは、「最良のユニフォームメーカー」をめざす企業姿勢を、シンボリックに言い換えたものです。

スローガンの意味

スローガンは、私たちがお届けする制服価値のあり方と、ものづくりの基本的な考え方に触れたものです。
ユニフォームに求められる、用途に応じた機能や耐久性、着やすさの実現はもちろん、働いたり学んだり、スポーツをしたりするための、モチベーションを高め、気持ちを整え、信頼を得る商品のあり方と、サスティナビリティ※1を重視した企業活動を実践する決意が込められています。

メーカーとしてのあり方

同じ学校や組織に属する人々ひとりひとりに、満足して着ていただけることを目標に、様々なデザイン、数量、サイズや納期でも対応できる設備と規模のあり方とノウハウを示しています。

■CSR※2指針とチェックリスト

私たちのCSR指針

社会が必要とする企業として
・人を大切にする経営を進めます
・適正品質と品質保証に努めます
・環境保全活動を推進します
・社会貢献活動を推進します
・法令、倫理規範を遵守します
・適切な情報開示を行ないます
・トンボブランドに恥じない行動をします

私たちのCSRチェックリスト

- □ その行動、その商品はトンボブランドを傷つけませんか?
- □ 人の気持ちや意見を大切にしていますか?
- □ 自信を持ってその商品を世に出せますか?
- □ 法律やルールに触れませんか?
- □ 家族や大切な人を裏切ることになりませんか?
- □ 社会に迷惑をかけませんか?

ブランドスローガン
『ここちよさを、ひとつずつ』

コフキヒメイトトンボ

コーポレートガバナンス※3

当社は客観性・透明性の高いガバナンス体制の構築を目指します。
企業統治の仕組みにおいては、ステークホルダーとの良好な関係作りのもと持続的な企業価値の向上を目指し、
「取締役会」及び「経営会議（執行役員会）」による意思決定のもとに、各事業部門別会議等を通じて伝達遂行されます。

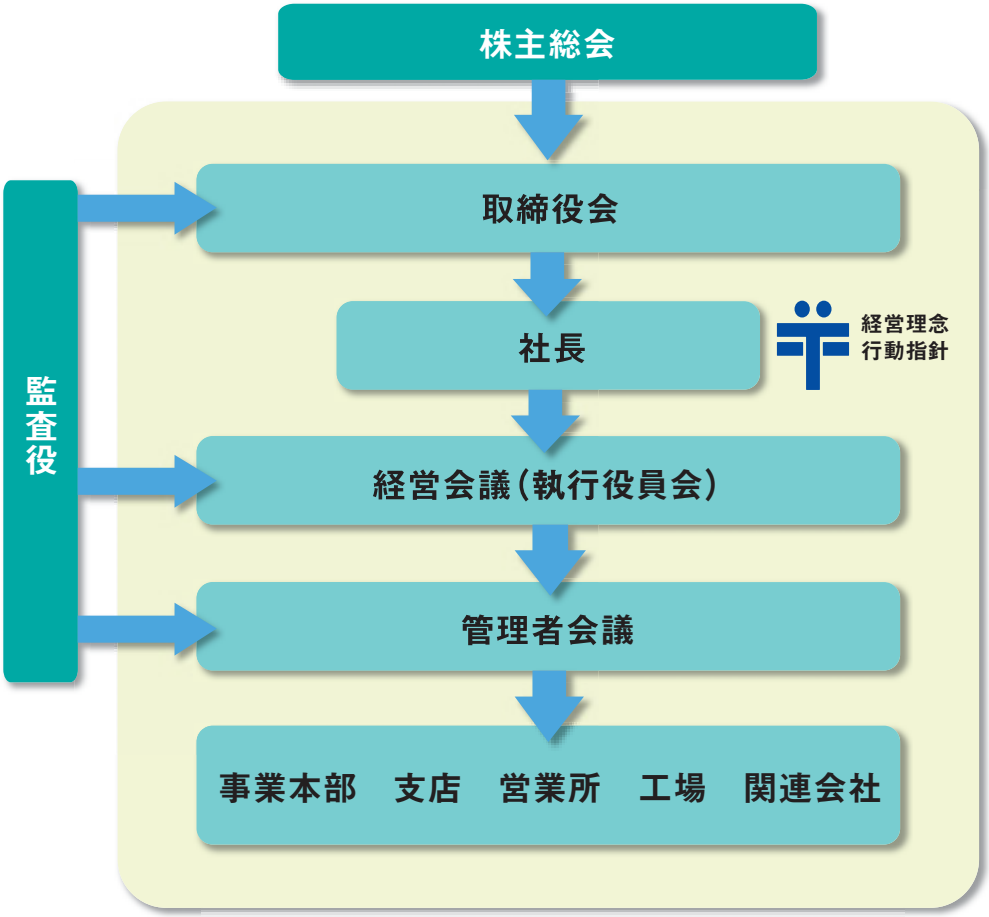
取締役会

株主総会にて選任された「取締役」による経営の最高意思決定機関。
法令及び定款に定める事項や、その他重要事項を決定。監査役同席のもと、毎月開催。

経営会議

取締役・執行役員により、会社の経営に関する基本方針の協議や会社の業務執行、
戦略に関する重要事項を決定。毎月開催。

コーポレートガバナンス体制



※1　サスティナビリティ　企業が利益を上げ、将来においても顧客に製品を供給し続けられる可能性を現在において持っていること。
※2　CSR（Corporate Social Responsibility）　企業の社会的責任。社会における企業のあり方、地域社会の中での役割・責任。
※3　コーポレートガバナンス　企業統治、内部統制。企業が社会や個人のために、健全で持続的な企業活動を行うための仕組み。

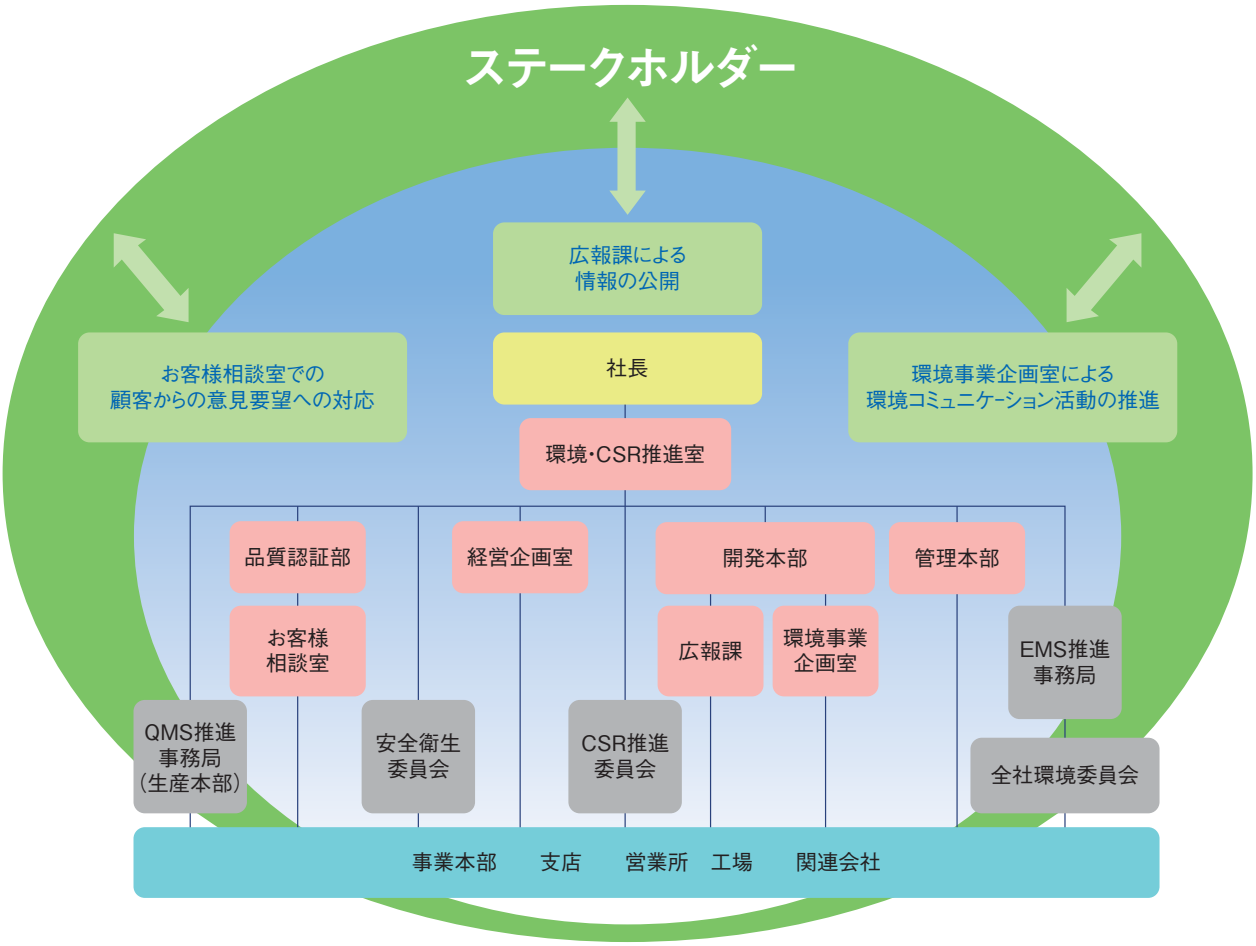
信頼される企業体制

CSR推進体制

企業として持続可能な成長および、社会と調和した活動を目指し、『私たちのCSR指針』と『私たちのCSRチェックリスト』を新たに掲げました。社会の役に立つ企業として、世の中の信頼を得られるよう、社員一人ひとりもその行動をしっかりと確認しながら企業活動に取組んで行きます。

推進組織

・社長直轄「環境・CSR推進室」を設け、委員会を定期開催し、CSR活動を推進しています。
・「広報課」「お客様相談室」「環境事業企画室」による、社内外への積極的なコミュニケーション活動を展開しています。
・経営企画室・管理本部主導のもとに、種々のCSR課題に取り組み、その1つとして、安全衛生委員会を設置し、各事業所の安全衛生に関わる改善活動を実施しています。
・EMS推進事務局、QMS推進事務局により、「ISO14001」「ISO9001」に沿った環境マネジメントシステム、品質マネジメントシステムの構築と充実を図っています。



CSR推進課題の振り返り

①環境課題への取り組み
環境マネジメントシステム(ISO14001)※1に則り、
全社EMS推進事務局会議、EMS推進本部事務局会議、
トンボ環境委員会活動を通して推進中

②コンプライアンス※2の強化
環境・CSR推進室主導のもと、法令順守に向けて、
過重労働対策、セクハラセミナー、各種勉強会を実施中

③リスクマネジメント※3
経営企画室・管理本部主導のもと、
経営会議・各種プロジェクトにて対応の体制を構築中

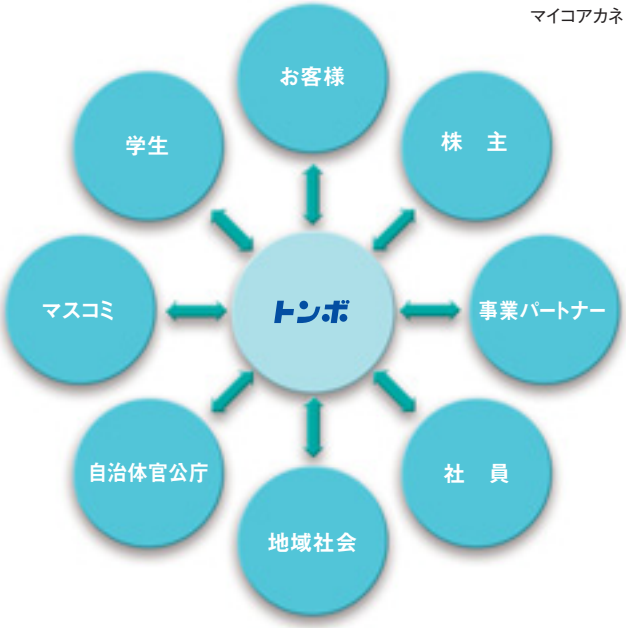
④社会環境変化への対応
管理本部・経営企画室並びに、各部門で対応中

⑤コーポレートガバナンス体制の確立
2008年度より連結決算を開始、
グループ連結経営体制の構築中

マイコアカネ

ステークホルダーと、主なコミュニケーション

当社の営業活動はすべて、ステークホルダー※4の皆様の信頼を得るためにあるといっても過言ではありません。商品の性質上、マスコミ露出の機会は多くありませんが、それゆえに、コミュニケーション手法と、お伝えする内容を工夫しています。



ステークホルダー	主なコミュニケーション手法
お　客　様	お客様相談室 ユニフォーム総合展示会・ エコプロダクツ展・国際福祉機器展　等 商品カタログ 学校向け制服情報誌「スクーラー」 小売店向け情報誌「エスキューブ」 制服着こなしコミック「ガクスタ」
株　　主	株主総会　決算報告書　社員持株会
事業パートナー	販売代理店・販売店研修　　品質改善会議 販売会社・協力工場・仕入先オンラインシステム
社　　員 （社員・OB）	社内情報共有システム（トンボネット） 社内報　　マンスリーレポート　　ブランディングブック キラク親睦会（会社概況説明会・親睦会）
地域社会	 工場見学会（学校社会科見学） チャレンジワーク（中・高校生） 各種協賛（校内広報板提供） 社会貢献活動（河川清掃・ビクトリースポーツ教室）
自治体官公庁 マスコミ	プレスリリース　　取材対応　　各種経済指標報告
学　　生	会社説明会　　インターンシップ受け入れ　　リクルート冊子
全　　体	 環境・CSR推進室 環境事業企画室 ホームページ トンボエコフォーラム CSRレポート トンボ歴史資料館案内 工場案内　会社経歴書

※1　ISO 14001　ISO（国際標準化機構）が定めた企業活動、製品およびサービスによって生じる環境への負荷低減等、環境経営に関する国際規格。
※2　コンプライアンス　法令順守・企業倫理の確立。
※3　リスクマネジメント　企業を取り巻くさまざまなリスクを分析し、対策を講じることで企業の存続・経営目標の達成を図る経営管理手法。
※4　ステークホルダー　企業活動に関する利害関係者。

お客様に安心と満足をお届けするために

お客様に安心していただく製品作り

創業130年の時、『メーカーにこだわる・徹する』の決意表明をし、より専門性を高め、お客様に安心と満足をお届けするために、研究開発から生産・物流機能の見直しを行いました。

取締役 生産本部長
押坂 昇

■品質方針:『No.1の品質管理で、顧客満足を達成しよう。』

私たちトンボは、お客様に安心していただく製品作りの為に、生産本部内での組織を見直し、責任・権限・役割を明確に致しました。
技術部では、新たに『トンボ工房』を設置し、設計品質の管理を行い、生産部ではもの作りの実行部門として製造品質の管理を行なっています。そして、品質認証部では、『お客様相談室』・『試験室』を設置し、トンボ全体の各種情報が集まり、品質保証体制の構築を図っています。

設計部門

技術部

試作品から量産パターン全ての制作、作業指示書・仕様書の作成、研究開発、試作品縫製等を通じて設計品質を管理しています。また、3次元CADを始め、パターンメイク・グレーディング・仕様書作成用に約20台のCADを導入しています。

トンボ工房

顧客ニーズにお応えするために、新技術の研究開発を行い、試作品の段階より基本品質・着心地や機能性などの検証が繰り返され、本生産までにパターン・仕様等の見直しを行います。工房内では、本生産で使用する各種設備を導入しています。

製造部門

生産部

「スクール生産部」・「スポーツ生産部」があり、それぞれ各専門工場を統括し、材料調達を始め、裁断・縫製・仕上げ・検査工程等、全ての生産業務を行っています。

不良「0」対策プロジェクト

生産本部長統括の下、2008.5月にスタートし、各工場別のチーム編成(37チーム)で撲滅へ向け対策実施を行い、是正を図ります。日々10時と3時に品質確認の時間を設けて推進し、朝礼で職場別に不良状況を発表します。
不良0には到達できていませんが、各工場とも昨年の半減は図れ、現在も継続中です。

生地の事前チェック体制

一昨年に2台の検反機を導入し、生地を裁断する前に検査をすることで、キズや汚れ等を未然に防ぐことができ、製品品質の安定・業務効率の向上に貢献しています。また環境面での観点からもロス防止となり目標に掲げる、ごみの減量化にも繋がっています。

品質認証・保証部門

品質認証部

「品質認証部」は、トンボ製品への高い信頼に応える品質保証を担う部門で、品質認証業務・各種試験業務・お客様相談業務を行っています。独自の厳しい品質基準を設け、設計・仕様・材料が自社基準や法規制に適合しているかを検査し認証します。また、生産ラインの各工程では、認証された仕様書等をもとに検査チェックが行われ、全てに合格したモノのみが商品として出荷されます。

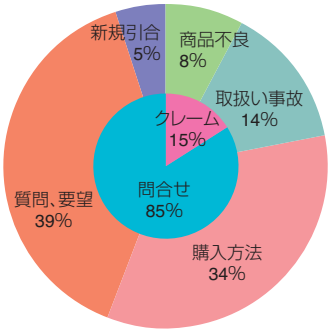
試験室

2008年10月に設置し、各種試験機(KES:素材物理特性試験機、ICIピリングスナッキング試験機、染色堅牢度試験機、マイクロスコープ拡大鏡、標準光源機等)を導入し、素材の事前確認を行っています。

お客様相談室

主にフリーダイヤルや電子メールによるさまざまなお問合せに対し、関係部署とも連携しながらお客様の立場にたったフォローを行なっています。
年間1000件近いお問合せがありますが、専任体制で即時対応を常に心がけています。併せて、お客様からの貴重なご意見、ご要望についても、関係する全部署と情報を共有し、課題・問題点については抜本的な改善策を講じると共に、商品やサービスの向上にも反映させています。

品質認証部 お客様相談室
課長　藤原　正志



2008年4月～2009年3月まで

シオカラトンボ

私たちは守っています

■機密情報と知的財産について

自社権利の保全と法令順守の一環として、産業財産権（特許、実用新案、意匠、商標）と著作権、個人情報保護の管理を行っています。特に著作権については、さまざまな違法行為が問題となっておりますが、当社では、著作権の権利範囲や使用方法についての社内教育や社外啓蒙を行っています。また、併せて個人情報の管理についても「個人情報保護方針」を策定し、運用しています。

■ISO9001※1（品質マネジメントシステム）

品質の確立と品質管理システムの構築の為、1999年10月に、業界の先陣をきって、ISO9002を認証取得（玉野本社工場・岡山工場）し、2002年8月に、ISO9001を生産本部全体に拡大し、品質マネジメントシステムの充実を図っています。
登録範囲:ユニフォームウエアの製造
2008年度の更新審査では、軽微な不適合1件、観察事項4件、評価できる事項4件でした。
2009年度の審査は、適用規格をISO9001:2008で受審します。

■トンボ品質基準

品質基準について

トンボ品質基準では、服種別検査基準として18品種に分類し、各縫製基準を設けてモノ作り・検査を行っています。
（詰襟学生服・ジャケット男・ジャケット女・コート・セーラー・ベスト・スラックス・スカート・シャツ・カットソー・セーター類・水着類・靴下類・ネクタイ類・手袋類・カバン類　等）
また、物性等の品質基準として31項目の物性基準を設けて品質管理を行っています。
（物性:引張強さ・引裂強さ・破壊強さ・ピリング・スナッキング・縫目滑脱・摩耗強さ等の13項目、耐洗濯性:水洗い洗濯・ドライクリーニング等の4項目、染色堅牢度:耐光・洗濯・汗・摩擦・水・ドライクリーニング・貯蔵中昇華等の13項目、その他:遊離ホルムアルデヒド）

有害物質の特定による製品の安全性について

有害物質とは、人の健康や生態系または生活環境に係わる被害を生じる恐れがある有害な物質で政令に定めるものです。
メーカーとして、ユニフォームウエア等の企画、設計、製造、販売において、環境影響を考慮し、地球温暖化防止に向けた活動のひとつとして、「使用原材料に含まれる有害化学物質の安全基準」を順守する必要があります。
対象品の分類を、「原材料」・「繊維製品」・「非繊維製品」の3つとし、それぞれの有害物質の特定と基準を定め、商品の使用原材料に配慮していきます。
特定有害物質:ホルムアルデヒド、アゾ系染料、ディルドリン、クロム系染料　等16品目の特定

適正な表示について

家庭用品品質表示法・不当景品類及び不当表示防止法に基づき、適正な品質表示を行い、消費者に製品の性能、取扱い方法、原産国等を伝えます。また、『お客様相談室』に直結するためフリーダイヤル表示をしています。尚、製造ロット番号からは、生産履歴が分かり、トレーサビリティ※2を可能にしています。

※1　ISO 9001　ISO（国際標準化機構）が定めた「提供する品質やサービスの顧客満足度の向上」を目的とした品質管理の国際規格。
※2　トレーサビリティ　生産・流通の履歴をたどることができること。

ハイライト　新玉野本社工場・物流センター完成

2007年5月より2期の工期を経て2008年10月に竣工、6階建18,000平方メートルの床面積となりました。
27,300平方メートルの敷地にはユニフォーム研究開発センター、カッティングセンター、生産工場、物流センター、トンボ歴史資料館（八正館）などが建ち、メーカーとして研究開発から生産、物流までの一貫した完成度の高い製品を供給できる一大拠点が完成しました。

玉野本社工場新体制

新工場は、よりお客様に満足いただける様、システムや設備を充実し、またカッティングセンター、物流センターとの接続により、裁断から仕上げ、入庫までがひとつの流れとなり、従来以上のクイックレスポンスが可能となりました。
完成した新工場をメーカー「トンボ」として、ものづくりの基盤に据え、また物流センターとの連携により常に品質・デリバリー力のレベルアップを追求していきます。

検反機導入により生地のキズ等を細かく検査し、最良の生地のみを使用

自動ラベリングシステム導入による廃棄用紙の削減

CAMシステム（自動裁断機）で、表生地、裏地、芯地を効率よく裁断

最新鋭のIH式接着機（芯貼機）導入により様々な芯地の樹脂への対応が可能

心を込めて丁寧に縫い合わせるミシン工程

釦付けミシン導入により均一で安定した加工を実現

最終検査・検針により品質と安全性を確認

熟練者による最新のプレス機を使用した仕上げ

チョウトンボ

■トンボ工房の設置と技術の伝承

トンボ工房は、主に縫製技術の面から、着心地、仕立て映え、デザインの先進性などを追及する研究・開発の中核施設として設置されました。さまざまな資格を持つベテラン技能士が、縫製から仕上げまで単独で仕立てます。
その高い技術は試作のみならず、量産段階でも継承されていきます。また、勉強会等により社員の教育・訓練を実施し、技術を伝承・浸透させています。

縫製技術の研究・開発を行い、最良のユニフォームをお届けします

快適な衣服創りを行うため、慎重に副資材を選定します

技術勉強会を実施し、幅広い知識と技術を共有します

スカートの柄合わせ、風合いにあった最良のプリーツ加工を研究します

■品質認証部門に試験室を設置

お客様に快適な状態で長期間着用いただく為には、多様化している主材料等の素材の物理特性を把握する必要があります。その為、品質認証部に専門の検査機関と同等の検査設備を備えた試験室を新設し、トンボ製品の物作りに不可欠な品質の精度を高める役割を果たしています。

ハイライト　新玉野本社工場・物流センター完成

玉野物流センター新体制

垂直自動搬送機、全自動梱包機の導入

最新の垂直自動搬送機（ハイトレー）、全自動梱包機を備え、6階建倉庫内での入出庫等の作業を効率化。また出荷レーンも増設しました。

垂直自動搬送機

全自動梱包機

新工場との接続によるスピード化

工場棟との接続により入庫作業を効率よくできるようになり、お客様へより早く商品をお届けすることが可能になりました。

配送プラットホーム

工場からの入庫引渡し

物流拠点集約によるロス軽減

分散されていた商品を同一倉庫で管理することで、まとめて出荷できるようになり、輸送エネルギーを軽減させることができました。

環境への配慮

モーダルシフトへ向けて

環境への配慮から大口取引先への輸送の一部で、モーダルシフト※1へ向け試験的に鉄道コンテナ輸送を開始しています。

鉄道コンテナへの積み込み

駐車場と敷地内の緑化

今春より来客用駐車場を芝生に変更しました。また、社員のボランティアによる「緑化委員会」を立ち上げ、工場敷地内の花壇に季節の草花を植えました。環境配慮だけでなく、美しい草花を眺めることで社員の気持ちも和んでいます。

緑化委員会の活動

来客用駐車場

1999年に設置のトンボ池。
ヨシなどの植物を植え、
毎年トンボのヤゴなども育っています。

夏場の暑さ対策

太陽熱を約90%反射・遮熱することのできる塗料を西陽の当たる窓ガラスに塗布し、社員の労働環境の向上と室内温度の上昇抑制による省エネが期待できます。

センサー式照明の導入

廊下・階段・トイレにセンサー式照明を導入。無駄な電力消費を防止することができました。

センサー式洗面台と擬音装置設置

トイレ洗面所にセンサー式洗面台、女子トイレには水流音の流れる擬音装置を設置。水使用量を半減することができました。

エゾトンボ

工場見学による地域貢献

玉野市の小学生に、社会科授業の一環として工場で働く社員の姿や製造工程を見ていただいています。また、中学生のチャレンジワークや大学生・養護学校生のインターンシップも受け入れ、将来の職業選択の参考になるような機会を提供しています。そのほか、地元の方々や、産業観光ツアーの会場としても提供しています。

小学生工場見学

専門学校生･企業見学会

福利施設充実

休憩テラス・食堂

休憩テラスと広い食堂を備え、社員のリフレッシュの場となっています。

休憩テラス

食堂

AED設置

休憩テラス入口に、AED（自動体外式除細動器）を設置しました。音声ガイド付きで万が一の時にも落ち着いて対応することができます。

AED（自動体外式除細動器）説明会

トンボ歴史資料館（八正館）

八正館は、いつの時代も新技術や手法をいち早く導入し、新たな時代を開拓した先輩諸氏の勇気と努力に敬意を表すとともに、130年以上に及ぶトンボの歴史と伝統を学び、そこから育まれたモノづくりの精神を伝え、未来に継承していくために開設しました。
トンボの歴史を物語る製品や設備の他、看板・ポスターなど様々な品を展示しています。
館内にあるトンボシアターでは映像でトンボの歴史などを紹介。創業期から現在までのトンボの歩みを総合的に理解できます。

昭和初期に建設された旧工場の一部を耐震補強した外観

昭和の面影を残した入口

当社の歴史を、昔のミシンや商品と共に紹介しています

懐かしいポスター等を展示。TVCM等の映像を見ることもできます

※1　モーダルシフト　トラックによる幹線貨物輸送から、大量輸送が可能な海運または鉄道に転換すること。CO_2排出量の抑制などに効果がある。

環境活動報告

環境方針

基　本　理　念

株式会社トンボは、創業時よりのブランド「トンボ」を旗印として、最良のユニフォームメーカーをめざし、地球環境の保全が最重要課題の一つであることを全社員で自覚し、次世代に向けてトンボが雄飛する美しい地球環境のもと、豊かで住みよい循環型社会を実現する企業活動を展開し、社会に貢献します。

基　本　方　針

1 環境マネジメントシステムの確立と継続的改善の推進
私たちは、国際規格に基づいた環境マネジメントシステムを構築し、実施し、維持し、定めたテーマに沿って、環境パフォーマンスの継続的な改善活動を推進します。

2 環境保全活動の推進
私たちは、環境に与える影響を認識し、評価し、汚染の予防を含めて、環境影響を考慮した企業活動を展開します。

3 環境上の法的要求事項及びその他の要求事項の順守
私たちは、当社の環境側面に関係して適用可能な法的要求事項及び当社が同意するその他の要求事項を順守します。

4 企業活動の展開
私たちは、ユニフォームウエア等の企画、設計、製造、販売において、環境影響を考慮し、また地球温暖化防止に向け、日常業務と一体化した活動を展開します。
①環境に配慮した素材の導入と製品開発・販売の推進。
②使用原材料に含まれる有害物質の安全基準の順守。
③資源の有効活用及び省エネルギーの推進によるCO_2排出量の削減。
④3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進。

5 自然保護活動の推進
私たちは、以下の自然保護活動を推進します。
①トンボ環境委員会活動の推進。
②トンボ絵画コンクールへの協賛支援。
③トンボと自然を考える会への協賛支援。
④学校のビオトープづくり、環境学習への側面支援。

6 環境方針の周知徹底と公開
環境方針は、社員並びに当社の企業活動への協業者に環境教育を通して周知し、全員が理解、実践できるよう啓発活動を推進します。
また、この方針は広く一般の人々に公開して、社会と共生する環境活動を推進します。

7 環境方針の見直し
定めた環境目的・目標が状況の変化に適応できるように、また環境方針が当社にとって適切かつ有効であり続けるように、私が見直しを行います。

2008年7月1日宣言
代表取締役社長　**落司 量則**

■内部監査

内部監査

年1回、経営者・環境管理責任者、EMS推進本部事務局及び全事業所を対象に内部監査を実施しています。監査チームは、限られた時間内で効率良く監査を進めるため、リーダーとサブリーダーが中心になって、「チェックリスト」を作成します。一方、被監査部門では勉強会を行うことで、事前準備と共に被監査対応者以外のメンバーにも周知をしています。

■社内環境教育

内部監査員養成研修

2000年～2008年で養成した内部監査員は、計186名になりました。当初の監査チームは、部課長クラスが主体の構成でしたが、現在では一般社員も多く参加できる体制になりました。また、主任内部監査員養成研修も過去2回実施しており、40名が登録されています。

■環境負荷の全体像

トンボの事業活動と環境負荷

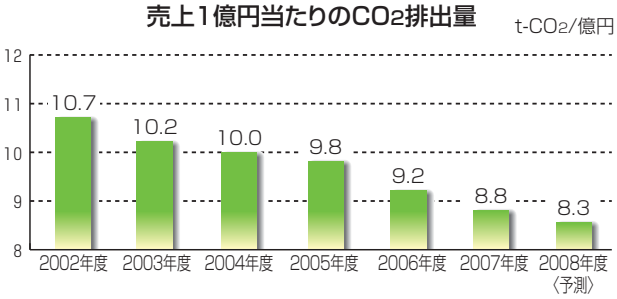
トンボの事業活動は、商品である制服製造のための原料調達から始まります。環境に影響を与えるものとして、事業活動のために必要なエネルギー資源の消費、その活動に伴って排出される廃棄物、二酸化炭素、大気汚染物質などが挙げられます。4月より、原料調達における環境負荷の把握を始めました。次年度より環境負荷の全体を報告します。

■二酸化炭素（CO_2）排出量の推移

CO_2排出量

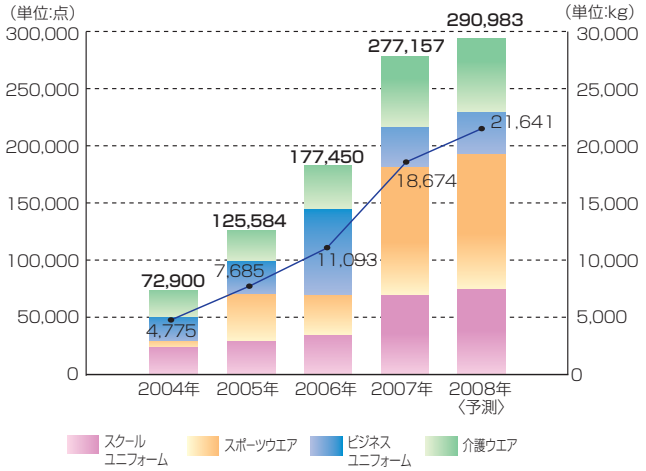
全社規模でCO_2排出量の削減に取り組んでいます。（電気,水道,ガソリン,プロパンガス,都市ガス,灯油,A重油,軽油の8項目）全社のCO_2排出量は、2002年度から2008年度にかけて、1,870から1,679t-CO_2に減り（▲10.2%）、これを売上1億円当りのCO_2排出量で見ると、10.7から8.3t-CO_2/億円になります。当社の二酸化炭素排出量は、電気,A重油,ガソリンの3項目で全体の93%を占め、特に電気が全体の70%を占めています。

売上1億円当たりのCO_2排出量



キトンボ

■エコ商品の販売実績とCO2排出削減量



※繊維製品(衣料品)のLCA調査報告書にもとづく
CO_2換算(2003年3月版)

■主要商品のLCAデータ

LCAとはライフサイクルアセスメント(Life Cycle Assesment)の略で、製品やサービスのライフサイクル全般において地球環境に与える負荷を分析し、環境負荷の低減を図るための手法です。
商品のライフサイクルにおける環境負荷の値を知ることは負荷削減のための第一歩です。当社の代表的な商品についてLCA手法を用いて環境負荷の値を計算しました。
算定については繊維製品(衣料品)のLCA調査報告書 経済産業省製造産業局 繊維課を基に行いました。

	アイテム	混紡率(%)	素材再生ペット率(%)	製造時消費エネルギー(MJメガジュール)	再生PETによるエネルギー節約率(%)	CO_2排出量(kg)	再生PETによるCO_2排出削減率(%)
スクールユニフォーム	女子ブレザー	ポリエステル60%毛40%	60	420.2	3.1	5.8	1.9
	スカート			298.7	4.7	4.4	2.0
スポーツウエア	ジャージ上	ポリエステル95%綿5%	63	177.6	8.0	1.3	7.2
	ジャージ下			154.1	8.8	1.2	7.2
介護ウエア	ジャージ上	ポリエステル95%綿5%	63	179.1	8.4	1.4	2.8
	ジャージ下			155.1	8.4	1.2	6.8
ビジネスユニフォーム	ベスト	ポリエステル70%毛30%	70	165.9	3.6	2.3	1.6
	スカート			168.5	3.7	2.4	1.6

1ジュールは102g(グラム)の重さのものを1m持ち上げるエネルギー。1メガジュールはその100万倍のエネルギーです。

■リサイクル・環境負荷低減のための取り組み

私達、メーカーにとっては、製品のLCAを考えた環境負荷低減は、重要なテーマです。ひとつひとつの仕事を見つめなおし、無駄な資源を使わず、有効な資源利用ができるように日々改善に努めています。

■原料調達における環境負荷低減

PETボトルリサイクル

ペットボトルリサイクル繊維とウールや綿を混紡した素材を使い学生服や体操服、企業制服などを製造しています。
この再生ポリエステルを使った製品は全体の4.8%になっています。

■製品着用後の環境負荷低減

制服着用後に回収をして素材の混紡率に応じて3つのリサイクルシステムでリサイクルに取り組んでいます。

1.ウールリサイクルシステム

ウールを含む素材のリサイクルです。学校や職場で着用された制服を回収し、マットやモップとして再商品化し、還元する「回収型リサイクル」に取り組んでいます。

2.エコログリサイクリングネットワーク

高混率のポリエステルを含む素材のリサイクルシステムです。ポリエステルを使用した商品を回収、分解してポリエステル部分をボタンやファスナーに綿はアルコールにして再利用します。このシステムは広域認定の許可を受けました。エコログリサイクリングネットワークのマークのついた商品は回収後、指定運輸業者により運ばれ、工場で加工されます。ポリエステルは繰り返しリサイクルが可能です。

3.ポリエステルケミカルリサイクルシステム

ポリエステルや一部綿を含む素材のリサイクルシステムです。ポリエステル繊維など殆どのポリエステル製品から添加剤、着色剤を分離し、高純度ポリエステル原料(DMT)を作ります。石油から作るものと同じレベルのポリエステルが製造される完全循環型のリサイクルシステムです。これにより生産時の使用エネルギーは約70%、CO_2排出は約80%と省エネルギーで環境負荷低減にも貢献します。

■パッケージにおける負荷低減

詰襟・ブレザーその他のパッケージ素材に「ケナフ・バガス」を使い、大豆インキで印刷しています。
今年より、段ボール素材もパッケージに使用を開始しました。また、各種包装付帯物も、再生紙・大豆インキやPE・PP・PETなど環境負荷の少ない素材を採用しています。運送用段ボールは「規格統一」して種類を減らし、さらに無地シールを貼って再利用をしています。

■製造工程の残り布でマイバッグ

製造工程で発生する端切れ(残布)や廃番原反を学校に差し上げています。これまでに80校を超えました。
残布で作ったマイバッグで川ゴミの最大原因であるレジ袋を減らし、川の浄化と絶滅危惧魚の生息環境保全活動に結び付いた例もあります。

高校生と幼稚園児が協力してアップリケをつけたオリジナルマイバッグを作りました

社会とのかかわり　トンボの縁で広がる輪

私達は自然のめぐみのお蔭で生きています。自然やいのちの大切さを学ぶには自ら自然との関わりを体験したり、自然と共に暮らしてきた伝統的な暮らしを理解する事が大事です。同時に、環境保全活動に取り組む人たちを支援し、行動を共にしてネットワークの輪を広げていくことも大事だと考えています。

■環境授業

小学校から高校までを対象に環境教育と自然環境学習の出前授業やプログラム支援を行っています。ユニフォームのリサイクル、ビオトープ作り、維持管理の支援、里山管理の指導などをNPO、環境団体と協同し、2008年度は全国で7校・9回実施しました。岡山の小学校での環境授業は地元の放送局でも報道されました。

森の笹刈り体験　板橋区立桜川中学校

環境出前授業　備前市立吉永小学校

■学校ビオトープづくり支援

自然と身近に触れあい、いのちのつながりを体験できるビオトープ※1は地域の自然再生にもつながる良い教材です。自然環境の大切さを学んでいただくために、ビオトープづくりだけでなく、継続して活用するための支援をしています。埼玉県では学校ビオトープ整備後の自然再生評価をするお手伝いを始めています。
兵庫県たつの市では、赤トンボ（アキアカネ）を増やす市民の取り組みが行なわれています。小学校児童の環境意識向上をめざして授業のお手伝いをしています。

たつの市立小宅小学校
ビオトープ再生活動

川ゴミを減らすために
配布したマイバッグ製作キット

■学校ビオトープコンクール支援

「全国学校ビオトープコンクール」は2年に1回開催され、優れた実践校が自らの活動を発表します。学校から地域へビオトープを軸として自然再生の輪が広がっています。コンクール協賛、応募の呼びかけ、報告書制作の支援をしています。

主催　財団法人日本生態系協会
http://www.ecosys.or.jp/eco-japan/

2007年度報告書
製作協賛

ならばやしビオトープ
越谷市立大袋東小学校

芝山湿地
千葉県立船橋芝山高校

■森の聞き書き甲子園支援

全国から応募した高校生100人が研修を受け、「森の名手・名人100人」をじかに訪れ名人の技や人生を「聞き書き」し、その成果を広く発信します。これまでに700人の卒業生が育ちました。都市と山村、世代を超えた交流は失われつつある伝統的な日本の暮らしや森の大切さを高校生達に教えます。卒業後、共存の森活動として全国4箇所の森・里山で地域の人たちとの交流が始まっています。

共存の森ネットワーク
http://www.kyouzon.org/index.html

第7回森の聞き書き甲子園フォーラム

フォーラム後の研修会での
発表

カトリヤンマ

■トンボ王国支援

当社は1986年からサポーターとしてトンボ自然公園づくりに参加しています。ここは、世界初のトンボをテーマとしたビオトープであり、トンボを追いかける子どもたちの遊び場であり、トンボの生態学習室や世界のトンボ展示室があり、子どもたちの遊びの場、学びの場ともなっています。現在では、四万十川水系の魚を展示した「さかな館」もあり、四季を通じて、多くの人々でにぎわっています。また、当社は、トンボ・ビオトープづくりを支援してきた「トンボと自然を考える会」の会員であり、多くの社員が個人会員として参加しています。

トンボ王国
http://www.gakuyukan.com/kingdom/

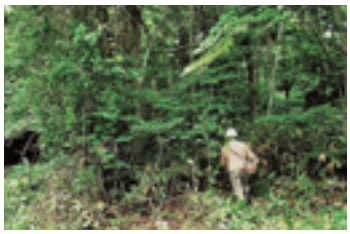
トンボ王国あきついお（四万十川学遊館）

■C.W.ニコル氏とともに、長野県「アファンの森」を支援しています

当社のグリーンアイ活動のエコパイロットであるC.W.ニコル氏は2002年5月31日にアファンの森財団を設立しました。アファン※2の森は、長野県黒姫の飯縄山麓にあります。放置され、熊笹と蔓（つる）とやせた樹木ばかりになっていた荒れた森を、ニコル氏が私財を投じて買い取り、友人や仲間と共に長い年月をかけて手入れし、再生してきました。アファンの森はトラスト運動を推進するとともに、森の維持管理や動植物の調査・研究・教育のフィールドとして活用されています。

C.W.ニコル アファンの森財団
http://www.afannomori.com/

手入れ後


手入れ前

■茨城県「アサザプロジェクト」支援

アサザプロジェクトは、小学生からお年寄りまで、誰もが参加できる霞ヶ浦・北浦流域の自然再生事業です。流域の小学校を中心に170校以上が参加。アサザ※3、マコモなどの在来水草を育てる里親となり、湖岸に植え付けるなど、流域全体に広がる自然再生事業の拠点となっています。アサザプロジェクトは別名“小中学生による公共事業”といわれるほど、子どもたちが重要な役割を担っており、市民は水源の森林・里山の手入れをする一日きこりや水草の植え付けなどのボランティア活動などで応援しています。

アサザプロジェクト
http://www.kasumigaura.net/asaza/

小学校で授業をする飯島代表理事、当社のホームページ「トンボエコフォーラム」にも環境授業のページがあります

アサザの花

※1　ビオトープ　生物群集が存在できる環境条件を備える地域、生物群の生息場所という意味のドイツ語。
※2　アファン　ケルト語で「風が通る所」という意味。C.W.ニコル氏の故郷ウェールズにある谷の名前から名づけた。
※3　アサザ　池や沼に生える多年生の水草。

環境活動報告

地球環境悪化を少しでも改善したい。トンボグループでは持続可能な社会作りに貢献できるように、自然やいのちの大切さを感じてもらう機会の提供や社員の啓蒙、地域・社会とのコミュニケーション活動など、できることに取り組んでいます。

トンボ絵画コンクール

豊かな自然の中に棲む生き物を観察することで自然やいのちの大切さを感じてほしい。
そんな思いではじめた事業に理解が広がっています。

1986年、創業110周年記念事業で、日本最後の清流と言われる高知県四万十川の流域で始められた「トンボ王国」づくりの支援事業としてスタートしたトンボ絵画コンクールも、はや23回を数え、応募総数153,354点と、日本一に。
「トンボと自然を守ろう」の合言葉のもと、子供たちに絵を描く楽しさや喜びを味わってもらおう、そして、自然や人の営みをしっかり観察する人になってもらおう、さらには、きれいな環境で生息するトンボがいる環境に思いをはせる人になってもらおうと願って始めた運動です。
17回目からは高校生にも枠を広げ、ますます広がりを見せています。

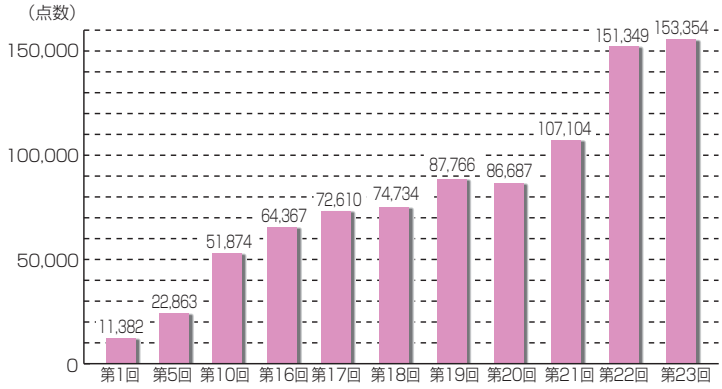
一次審査風景

最終審査風景

表彰式

記念撮影

■応募数推移



■真剣に描く子供たち

アサザ基金の指導でスケッチ大会

■入賞作品

http://www.tombow.gr.jp

トンボ絵画コンクール　検索

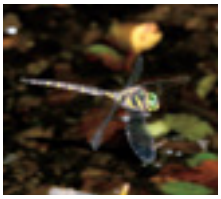
環境大臣賞　小学1年の部

文部科学大臣賞　小学2年の部

環境大臣賞　小学4年の部

文部科学大臣賞　小学5年の部

■主催:朝日新聞社　朝日学生新聞社
■後援:文部科学省　環境省　全国都道府県教育委員会連合　全国市町村教育委員会連合会　全国連合小学校長会　全日本中学校長会　全国高等学校長協会　全国中学校文化連盟　全国高等学校文化連盟　全国高等学校美術工芸教育研究会　日本PTA全国協議会　世界自然保護基金ジャパン（WWF Japan）　日本トンボ学会　トンボと自然を考える会
■協力:学習研究社・サクラクレパス


コシボソヤンマ

環境活動とコミュニケーション

環境への取り組みは人づくりから。できるだけ多くの人に環境の現状を伝え、思いを共有し一緒に改善に向けて行動して欲しい。そんな思いで今できることに取り組んでいます。

■エコプロダクツ展、エコフェスタ岡山参加

毎年12月に東京ビッグサイトで開催される「エコプロダクツ展」に参加しています。来場した小、中、高校生にミニ環境授業を実施しました。制服1着を作るのにどれだけのエネルギーが必要か、どれくらいのCO^2が発生するかについてペットボトルを持ち上げたり、発電体験をしてもらいました。制服の残り布で作る「マイバッグ制作キット」のプレゼントは今年度も好評でした。地元で開催される「岡山エコフェスタ」では、国産エコマークや岡山県エコ製品、トンボ絵画コンクールの優秀作品を展示しました。

エコプロダクツ展

岡山エコフェスタ

■社会貢献活動

身近で出来る社会貢献活動を各事業所で実施しています。

玉野本社工場　マイ箸運動

マイ箸の使用が進んでいます。
使用率95%（社員236人）最近では岡山本社でもマイ箸運動を開始しました。

美咲工場　環境啓蒙活動

EMS活動啓蒙の一環として環境標語を募集しています。
優秀な作品は工場内に貼り出しています。
2008年の応募件数225件。

東京支店　地域清掃活動

毎週第一営業日の朝礼後、支店の回りの清掃活動をしています。

玉野本社工場・物流センター　献血に協力

年2回献血を実施しています。毎回20数名の協力があります。

ビクトリースポーツ教室

■スポーツを通して心の教育を

VICTORYスポーツ教室は、「子供たちにスポーツを通して心の教育を」をテーマに全国の小学校、中学校、高等学校に「憧れのアスリート」が直接赴き、講師となって講演と実技指導を無料で行う画期的なプログラムです。

城彰二氏によるサッカー教室

原田裕花氏によるバスケットボール教室

2001年にスタートから8年目を迎え、45校で開催、講演参加者26,500名超、実技指導参加者4,000名超となりました。

〈主催〉朝日新聞社・朝日学生新聞社
日刊スポーツ新聞社

〈後援〉全国市町村教育委員会連合会
(財)日本中学校体育連盟
(財)全国高等学校体育連盟

http://www.tombow.gr.jp

ビクトリースポーツ教室 検索

VICTORYスポーツ教室講師陣(順不同・敬称略)

・松木安太郎(サッカー) ・城彰二(サッカー) ・セルジオ越後(サッカー)
・宮澤ミシェル(サッカー) ・永島昭浩(サッカー) ・山下泰裕(柔道)
・山口良治(ラグビー) ・衣笠祥雄(野球) ・村田兆治(野球)
・福本豊(野球) ・与田剛(野球) ・宇津木妙子(ソフトボール)
・伊東浩司(陸上) ・有森裕子(陸上) ・中垣内祐一(バレーボール)
・大林素子(バレーボール) ・益子直美(バレーボール) ・西川大輔(体操)
・原田裕花(バスケットボール) ・神尾米(テニス) ・陣内貴美子(バドミントン)

(2001～2009.5.30までに実施した学校)

北海道	札幌山の手高等学校
	室蘭大谷高等学校
青森県	青森市立新城中学校
岩手県	盛岡市立河南中学校
	盛岡市立青山小学校
宮城県	利府町立しらかし台中学校
	仙台商業高等学校
福島県	郡山市立郡山第三中学校
茨城県	土浦市立土浦第一中学校
群馬県	伊勢崎市立宮郷中学校
埼玉県	越谷市立光陽中学校
神奈川県	秦野市立渋沢中学校
	横浜市立矢向中学校
新潟県	新潟県立新潟北高等学校
石川県	金沢市立西南部中学校
長野県	佐久長聖中学・高等学校
	飯山市立第二中学校
	安雲野市立堀金中学校
岐阜県	高山市立中山中学校
静岡県	藤枝明誠中学校・高等学校
愛知県	名城大学附属高等学校
	刈谷市立刈谷東中学校
京都府	平安女学院中学校・高等学校
	京都精華女子中学高等学校
大阪府	高槻市立第三中学校
	大阪市立加美南中学校
	和泉市立北池田中学校
	高槻市立第四中学校
兵庫県	姫路市立谷外小学校
	日ノ本学園高等学校
奈良県	関西中央高等学校
和歌山県	和歌山県立有田中央高等学校
	紀ノ川市立貴志川中学校
島根県	明誠高等学校
岡山県	岡山理科大学附属中学校
	津山市立北陵中学校
広島県	広島県立福山誠之館高等学校
	広島県立安西高等学校
山口県	山口県立下松工業高等学校
徳島県	徳島県立徳島商業高等学校
愛媛県	四国中央市立川之江小学校
福岡県	福津市立福間中学校
	福岡舞鶴高等学校・同附属中学校
鹿児島県	鹿児島市立天保山中学校
沖縄県	那覇市立金城中学校

トンボスポーツ振興アドバイザー 山口良治さん

スポーツ振興活動をより価値あるものにするために、2008年よりラグビー界の名監督である山口良治さんを「トンボスポーツ振興アドバイザー」としてお迎えしています。
また、山口さんを講師に迎え、教職員を対象とした講演会を各地で開催。自身の体験からスポーツを通して生徒と正面から向き合うことの大切さを伝えていただいています。

ハグロトンボ

制服着こなしセミナー

生徒、先生や保護者の方に、制服を正しく着こなす意識について理解して頂くため
トンボグループは業界に先駆け「制服着こなしセミナー」を行っています。

私たちの制服にかける思いは『こころ(精神)をカタチに』の言葉に凝縮されています。制服は、学ぶ自覚を促すとともに、教室を学ぶ雰囲気に整える役割が期待され、また、良い意味でライバル他校との差別化を図り、自校と自らのプライドを助長する教材だといえます。制服をしっかりと着こなしはつらつと過ごす生徒の姿は、ほんとうに美しく見えます。

しかし、制服を私服感覚で着崩したり、そこまでいかずとも、だらしなく着て当たり前のような風潮が蔓延するようだと、その効果も半減し生徒の内面さえ疑われるのではないでしょうか。
そこで、制服を提供する立場から、生徒のみなさんの制服姿を良くしたいとの願いから、「制服着こなしセミナー」を行っています。

トンボが伝えたいこと(セミナー内容)

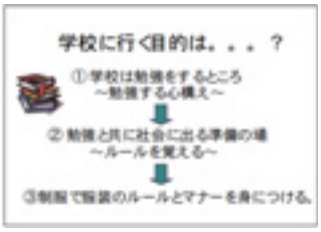
http://www.tombow.gr.jp

制服着こなしセミナー　検索

生徒対象の場合、共感を呼ぶ映像や話題などを交え、わかりやすく面白いものにしていますが具体的には次のようなことを伝えるように組み立てています。

①制服は教材

制服は教科書と同じように教材の一部であり、マスターするまで反復指導されるのは当然であること。

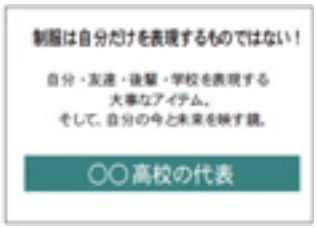


②見かけで内面が分かる

制服姿(着こなしや態度、表情など)が内面の現れであり、外見の印象によって、その人の内面もある程度評価されてしまうこと。

③見かけが所属するグループのイメージを作る

自分の制服姿が、自分だけでなく友達や先輩後輩、ひいては学校そのもののイメージに良くも悪くも影響すること。



④制服は「ON DUTY WEAR」

・カジュアルウエア(私服)＝
ノンルールがルール。
・オンデューティウエア(制服)＝
時と場面と場所に応じた着こなし。

だから、制服と私服の着こなしを混同して着こなすと着崩しになること。

セミナー後、生徒や先生の感想

生徒の声

・人は見た目が大事なんだなと改めて思いました。
・スカート丈はカジュアルな時とフォーマルな時で着方の基準が違うことを知りびっくりしました。

先生の声

・生徒も制服の意味等、よく理解できたと思う。
服装指導方法についても、今後検討していきたい。

制服着こなしセミナーは、年々要望が多くなり2001年開始以来、延べ860校を超えた学校で開催しています。

ユニフォームミュージアム リニューアル

1996年、当社創業120周年記念事業として開設されたユニフォーム研究開発センター内の120Hallには、最新の制服をお見せするショールームと、ユニフォームミュージアムがあります。ショールームは毎年更新され、これからご採用いただくための新商品と最近の採用実績が展示され、ユニフォームミュージアムは、学校制服のルーツや変遷をたどる展示がされていますが、玉野本社工場リフレッシュに合わせ、このたびユニフォームミュージアムも衣替えしました。

http://www.tombow.gr.jp

ユニフォームミュージアム

■企画展示『学ぶスタイルの変遷』

今回のリニューアルは、日本の学制発足と同時に始まった【生徒の姿】をたどっています。官立の学校制度が初めて作られた飛鳥時代を起点に、文化が変化する節目の時代を選び、学生のスタイルを追っています。もちろん当時のものはほぼ現存せず、絵巻物や文献、他の資料からの類推をもとに復元していますが、リアリティを追求し、当時の学生の体格や髪型なども調べた上で、オリジナルマネキンに着せ付けています。

また同時に小冊子『学ぶスタイルの変遷』も用意し、当時の教育制度や衣服の背景にも触れています。かつては官吏養成など少数エリートのためだけのものだった学校が、次第に大衆に普及する過程と、それに連れて、当時の風俗の上辺をなぞりながら推移してきた生徒の姿は興味深いものがあります。日本における制服の歴史は、100年足らずしかないのですが、この間の既製服産業発展がいかにめざましいものであったかが良くわかります。

●江戸時代の
武士子弟の服装

●飛鳥時代の
麻の朝服

●鎌倉時代の
稚児装束

●海老茶式部と呼ばれた
明治時代の女学生スタイル

●江戸時代、寺子屋で学ぶ
庶民の子供たちの服装

ギンヤンマ

財団法人 八正会（はっしょうかい）

財団法人 八正会は、岡山県内の高校生に対して奨学金を給付する育英事業団体です。

■八正会の概要

八正会は、初代社長三宅保正が、「自分が今日あるのは社会から、また不特定多数の人々から幾多の恩恵を受けているからに違いない、少しでもその恩返しをしたい」との思いから、1956年私財を投じて始めた育英事業で、1960年に財団法人設立認可を受けました。
岡山県内に在住し、県下の高等学校に進学を希望する生徒に奨学援助を行い、社会に有為な人材育成を支援しています。これまでに、600名以上の生徒を送り出しています。

■八正会の活動

◎八正会では、年4回の研修会を行い、人間性の向上と奨学生同士の親睦を深めています。

4月 入会式

新会員を迎えて、現会員・役員・OBたちが集まり自己紹介をしたり研修会の様子を話してくれます。

◎機関誌「やまびこ」の発行

会員の交流の場として、また会員一人ひとりが自己を省みる場として、会員・役員・OBの執筆による機関誌「やまびこ」を年2回発行しています。

http://www.hasshoukai.or.jp

財団法人　八正会　検索

8月 夏期研修会

2泊3日の宿泊研修です。ディベートやボランティア活動、レクリエーションなどを通じて交流が深まります。

ディベート

レクリエーション

11月 秋期研修会

講演会や野外活動を行います。

1月 歓送会

卒業生を送り出します。

健全な企業風土づくり

「いきいきと働ける職場づくり」

■健全な労使関係

労働組合「トンボユニオン」と健全な労使関係にあり、社員の労働条件などについて交渉・協議を行っています。

■レクリエーション

会社と組合協賛でスキー旅行、日帰り旅行、ボウリング大会等開催しています。

■社員の健康増進

様々な社内クラブ活動を支援しています。就業後や休日には練習、試合、合宿など、普段の運動不足や仕事の疲れなどを解消し、社員のコミュニケーションに役立っています。
また、玉野本社工場に新しくフィットネスルームを設置し、プロのインストラクター指導のもとに健康教室、エアロビクスも行っています。

■労働安全衛生対策

安全衛生委員会では、定期的に職場を巡回し、安全面や衛生面のチェックを行い、必要に応じて対策をとっています。
中でも、繁忙期の入学シーズンに残業が多くなった社員には健康管理のため、産業医の先生と面談を実施し、心身の健康チェックを行っています。

■マイスター制度

ユニフォームメーカーとしての基盤となる、物づくりに関わる技術・技能・ノウハウを次世代にスムーズに継承していくことを目的に、熟練を要する高度な匠の技術を有する人に「マイスター」、「インストラクター」の称号を与え手当を支給しています。
現在の認定者は、マイスター1名、インストラクター5名です。

■セクシュアルハラスメントセミナー

セクシュアルハラスメントについて正しく理解してもらい、発生防止のため2008年は一般社員を対象に全職場でセミナーを開催しました。

岡山本社(岡山支店含む)	東京支店	福岡支店	玉野工場(物流含む)	岡山工場	美咲工場	合計
53名	30名	16名	285名	90名	77名	551名

■こころの健康相談室

社外の専門の先生が社員とその家族の方々のこころの健康相談にのってくれます。2008年の延べ相談件数は電話が23件、メールが97件ありました。

■託児施設

社員が安心して働ける環境を整えるために、1歳から5歳までの乳幼児を預かる託児所を玉野本社工場内に設けています。

	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
託児所利用者(人)	11	12	10	17	8

■育児休業・介護休業制度

1年間(最長1年6ヶ月)の育児休業制度ならびに6ヶ月間の介護休業制度を設けています。

	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
育児休業取得者(人)	5	0	4	1	4

■再雇用制度

60歳定年後も引続き勤務する意思のある人を対象とした再雇用制度を設けています。

	2005年	2006年	2007年	2008年
定年到達者(人)男	4	4	4	6
女	6	14	21	18
再雇用者(人)　男	1	2	2	5
女	1	7	11	11

■障がい者雇用

障害を持った方がいきいきと働ける職場作りを目指します。

	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
障がい者雇用率(%)	1.98	1.76	1.69	1.63	1.62

オオイトトンボ

■トンボでは人材育成を3つの側面から構成し、個人の能力アップをサポートしています。

1.トンボスクール（能力開発研修）

階層別研修では入社2年目の研修を新しく加え、入社後3年間は毎年研修を受けるようにし、育成とともにコミュニケーションや横のつながりの強化も図っています。

トンボスクール

社内研修

①専門職能資格者研修
- ・副主事研修
- ・評価者研修　初級、中級
- ・マネジメント研修
- ・目標設定研修

②階層別研修
- ・新入社員研修、新入社員フォロー研修
- ・チームワークトレーニング研修（2年目）
- ・技能職研修　初級（3年目）、中級（5年目）
- ・一般職研修　初級（3年目）、中級（5年目）
- ・総合職研修　初級（3年目）、中級（5年目）

③専門別研修
- ・セールスパワーアップ研修
- ・ビジネス計数研修
- ・MD力アップ研修　初級・中級

④一般研修
- ・メンタルヘルス研修
- ・セクシュアルハラスメント研修

⑤グループ会社研修
- ・セールス研修

外部派遣研修
- ・幹部候補生スクール
- ・修養団みがく講習会
- ・QCスクール
- ・パターンメイキング
- ・マーチャンダイジング
- ・繊維素材の基礎知識
- ・品質管理、苦情事例研究
- ・その他

2.目標によるマネジメント

期首に個人の1年間の目標を立て、自律的なマネジメントサイクルにより目標達成を目指します。目標の設定は会社の方針と個人目標を連動させ、また個人の3年後のビジョンも考えてもらいます。
目標の設定、半期面接、期末面接の節目では常に上司と部下で話し合いが持たれます。

3.自己啓発援助

通信教育を推奨しており、受講期間内に修了した場合には受講料の援助金が給付されます。
今年も181名と多くの方が受講し、修了者148名で、修了率は81.8%となっています。また今年から会社と部門が推薦するコースを新設し、援助金の率も上げました。

■その他　社員の努力を評価、表彰する制度があります

1.提案制度

業務改善活動として、個人でおこなう「個人提案」と、チームでおこなう「チーム提案」があります。提案報告書、発表会などをとおして審査され表彰と賞金支給が行なわれます。2007年度の総提案件数は2383件で1人平均3.93件でした。

2.資格制度

自己啓発の一環として、資格取得を応援しています。会社が奨励する資格取得者には、お祝い金が給付されます。

	2008年	2008年累計
・衛生管理者	5	14
・日商簿記検定	1	2
・システムアドミニストレーター	1	3
・危険物取扱者	0	3
・電気工事士	2	2
・技能士（縫製、パターン、機械整備等）	3	37
・繊維製品品質管理士（TES）	4	24
・販売士	4	12
・ビオトープ計画・施工管理士	0	1
・色彩能力検定	0	1
・秘書技能検定	1	1

制服と青春の思い出

こだわりのデザイン

小・中学生の頃は体が弱く病気がちで線の細い子どもでしたが、大学時代に欧米諸国を訪れる間に、写真のようにすっかり健康になりました。私は学習院の初等科、中等科を卒業しましたが、その時の学生服が濃紺で立て襟、金ボタンではなくホックで留めるタイプのもので、私が現在着用しているものに似ています。今考えると立て襟の服を着るのは、潜在意識がそうさせているのかもしれません。

25年ほど前に、ある百貨店の関係者が昔ファッションショーで残っていた服を用意してくれたのです。数年後自分でデザインしました。当時は、年上の方々と仕事をする時に怪訝な顔をされたものでしたが、1995年にベストドレッサー賞をいただいてからはまわりの目を気にしなくなりました。今ではすっかり定着しています。

地上30cm、思い出のスカート丈

中学は私服でしたので、制服着用の高校時代は、人生の貴重な思い出です。友人同士でスナップを撮ることが多く、当時の写真は多く残っています。スカートの長さは地上から30cm丈、街を歩く際は制服着用と決まっていたので、友人同士で並んで歩いていると、どこから見ても全員のスカートの長さが揃うようになっていました。歴史ある学校で、制服はとてもシンボリックなものでした。厳しい校則でしたが、とてもよく育てていただき、生きる道筋を立てて頂いたことに感謝しています。自分で、夏の白いブラウスを1着縫うことが伝統で、割烹着も縫ったことがあり、今でもとても思い出に残っています。

地域に根付いた学生服

中学は基本的には私服でしたが、式典の時などのためにオーソドックスな金ボタンの学ランもあり、高校は3年間着用していました。1学年900人ほどの男子校で、駅と学校の間はまるで蟻の大群が歩いているようでした。私の学校ではズボンの裾回りを縮めて履くのが流行っていて、私も16cmくらいにしたところ、なかなか脱げずに苦労しました。学ランの下は、VANのボタンダウンが定番でしたね。

当時は息苦しくも感じていた学生服ですが、今でもローカル線に乗った時などに昔からある学生服の看板を見かけると、学生服は地域に根付いていることを感じますし、当時の写真を見ると青春時代の風景や流行っていた歌などが思いだされます。

服部 幸應さん

日本の「食育」を牽引し、テレビ、雑誌等のメディアでも活躍。
学校法人服部学園服部栄養専門学校の理事長・校長（医学博士）。

見城美枝子さん

元TBSアナウンサーで、現在はエッセイスト・ジャーナリストなどとして活躍しながら、青森大学社会学部で教鞭も執る。

泉 麻人さん

フリーのコラムニストで、新聞・雑誌と幅広く活躍。
「シェーの時代」「青春の東京地図」「50の生えぎわ」などの著書がある。

代表的商標の歩み

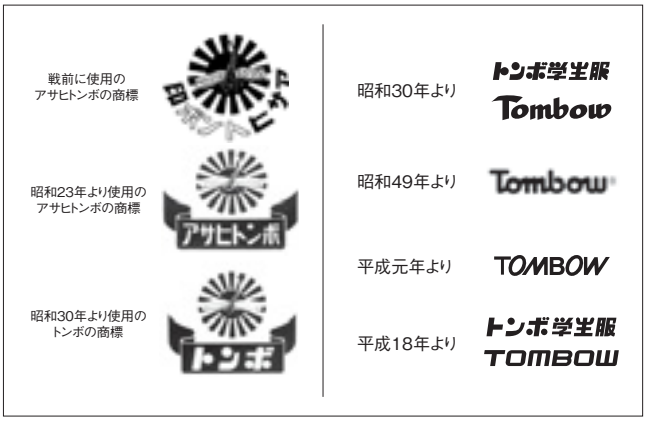
◎足袋製造時代の主力商標は、キラク

瀬戸内特産の綿花を使った足袋がヒットした時代の主力商標はキラクでした。創業者の母親の名を『亀』と言い、その亀さんを楽にさせたい、だから亀楽の意味でキラクとなったと言われています。その後、キラク商標はしばらく休眠していましたが、1997年（平成9年）、介護衣料を始めるに当たり、キラクを、人生を例える『喜怒哀楽』から怒りと哀しみを取り去った「喜楽」と読み替え、新生キラクが立ち上がり今日に至っています。

キラクの商標（明治43年頃より）

◎トンボ商標

アサヒトンボ商標は、当初、キラクに続く足袋商標の代名詞でした。1930年（昭和5年）、学生服製造を始めるに当たり、市場に早く浸透するため、その知名度を生かしアサヒトンボ商標が用いられましたが、学生服事業が拡大するにしたがって、呼びやすさや親しみやすさからトンボが一本立ちし、『トンボ学生服』となり、今日に至っています。トンボ商標は、創業80年史（1956年刊）によれば、「日本は世界一蜻蛉（とんぼ）の多い国であります。日本の国を秋津洲（アキツシマ）ともいい、この「秋津」とはトンボのことです。即ちトンボは日本を表徴し、しかも子供に親しまれる益虫であります。更に「アサヒ」は将に太陽の天に昇るところ即ち日出づる国として、日本の表徴であります。ここのアサヒにトンボを組み合わせた図柄は、我国の発展を祈る真心より弊社の商標といたしたものであります。」の記述があります。



■ 沿革

1876年（明治9年）	●三宅熊五郎により創業
1908年（明治41年）	●初代社長三宅保正が事業を継承
1910年（明治43年）	●「キラクたび」を主要商標として登録
1924年（大正13年）	●法人設立、帝国足袋株式会社と称す
1930年（昭和5年）	●学生服の生産・発売を開始。現在のトンボ学生服の第一歩である
1944年（昭和19年）	●帝国興業株式会社に社名変更
1945年（昭和20年）	●学生服・足袋再生産開始
1947年（昭和22年）	●紡績部門を設ける
1955年（昭和30年）	●学生服・作業服・トレーニングパンツJIS規格表示許可工場となる
	●合繊製品生産開始
1965年（昭和40年）	●丸洗い（ハイウェイ）学生服誕生
1971年（昭和46年）	●スポーツウエア専門柵原工場（現 美咲工場）建設
1974年（昭和49年）	●テイコク株式会社に社名変更
	●本社事務所岡山に移転
	●岡山工場　新築移転
1976年（昭和51年）	●創業100周年
	●S.I（スクールアイデンティティ）提唱
	●オンラインシステム導入
1979年（昭和54年）	●本社事務所 岡山駅前に移転
1982年（昭和57年）	●玉野流通センター完成
1983年（昭和58年）	●業界初のウール50%ウォッシャブル学生服誕生
1984年（昭和59年）	●本社工場コンピュータ・グレーディング・マーキングシステム導入
1986年（昭和61年）	●創業110周年記念事業として「WELOVEトンボ」絵画コンクールを始める
1989年（平成元年）	●デザイナー山本寛斎氏と提携、「KANSAI SCHOOL FORM」販売開始
1990年（平成2年）	●デザイナー桂由美氏と提携し、ビジネスユニフォーム販売開始
1993年（平成5年）	●本社工場内にカッティングセンター設立と自動裁断システムの導入
1994年（平成6年）	●デザイナー中野裕通氏と提携し「ヒロミチナカノスクール」販売開始
1996年（平成8年）	●創業120周年事業としてユニフォーム研究開発センター設立
1997年（平成9年）	●介護、リハビリウエア「KIRAKU」販売開始
1999年（平成11年）	●ISO9002品質マネージメントシステム（QMS）認証取得
2001年（平成13年）	●ISO14001環境マネージメントシステム（EMS）認証取得
	●「コムサデモード・スクールレーベル」販売開始
2002年（平成14年）	●ISO9001品質マネージメントシステム（QMS）認証取得
	●本社事務所　岡山市厚生町に移転
2003年（平成15年）	●「オリーブ デ オリーブ・スクール」販売開始
2006年（平成18年）	●ISO14001環境マネージメントシステム（EMS）認証取得（全13事業所）
	●創業130周年　株式会社トンボに社名変更
2008年（平成20年）	●新本社工場・物流センター完成

トンボひとくちメモ

日本はトンボの国

その昔、日本のことを「秋津洲」と呼んでいました。「あきつ」とはトンボの古い呼び名。つまり、日本はトンボの国だったのです。日本書紀によると、大和の地で即位された神武天皇が小高い丘の上から国見をされた折、「あきつのとなめ（交尾）せるが如くあるか」と仰せられたことがきっかけとされています。

トンボCSRレポートに関するお問い合わせ先

株式会社トンボ　環境・CSR推進室

〒700-0985　岡山市北区厚生町2丁目2-9　E-mail　kankyo@tombow.gr.jp　TEL.（086）232-0368　FAX.（086）225-6680

※当レポートに掲載されている内容・写真の無断転載はお断りします。

CSRレポートとは

企業が、環境や社会問題などに対して倫理的な責任を果たすべきであるとするCSR（企業の社会的責任）の考え方に基づいて行う、社会的な取り組みをまとめた報告書。持続可能性報告書とも呼ばれ、企業の環境、労働、安全衛生、社会貢献などに関する情報や、事業活動に伴う環境負荷などを幅広く公開する。近年、さまざまなステークホルダーに対する説明責任を果たすコミュニケーション手段の一つとして環境報告書からCSR報告書へ移行する企業が年々増加傾向にある。

第23回「We Loveトンボ」絵画コンクール
文部科学大臣賞　小学2年の部　宮本 琉海

人と自然を大切にした価値ある製品づくりを

株式会社 トンボ

トンボCSRレポート

検索

ミックス品
FSC認証林及び管理された森林からの製品グループです
www.fsc.org Cert no. SA-COC-001196
© 1996 Forest Stewardship Council

PRINTED WITH SOY INK

印刷用紙は、適切に管理された森林で生産されたことを示すFSC森林認証紙を使用。
インキは環境負荷の少ない植物性大豆インキを使用しています。